

日 本 史

(問 題)

2017年度

〈2017 H29110015 (日本史)〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～8ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

	万	千	百	十	一
(例) 3825番⇒		3	8	2	5

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 次の史料は、『平家物語』の一節である。これを読み、下記の問1～8に答えよ。問1・2については、それぞれの解答を記述解答用紙に記入せよ。問3～8については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の記号をマークせよ。なお、空欄 **A** に関する設問はない。

近く本朝をうかがふに、**A** の将門・**B** の純友・康和の義親・平治の信頼、此等は奢れる心もたけき事も、皆とりどりにこそありしかども、まちかくは **C** の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申し人のありさま、伝うけ給るこそ、心も詞も及ばれね。

其先祖を尋ねれば、桓武天皇第五の皇子、一品式部卿葛原親王、九代の後胤讃岐守正盛が孫、刑部卿忠盛朝臣の嫡男なり。彼親王の御子高^{たか}親の王、無官無位にして失せ給ぬ。其御子 **D** の王の時、始て平の姓を給て、上総介になり給しより、忽に王氏を出て人臣につらなる。其子鎮守府將軍義茂、後には国香と改む。国香より正盛にいたる迄六代は諸国の受領^{うけつり}たりしかども、殿上の仙籍をばいまだゆるされず。

問1 空欄 **B** にあてはまる語を、漢字で記せ。

問2 空欄 **C** にあてはまる平氏政権の拠点であった地名を、漢字で記せ。

問3 『平家物語』と同じ軍記物語はどれか。

- ア 『愚管抄』 イ 『元亨釈書』 ウ 『陸奥話記』
エ 『水鏡』 オ 『本朝文粹』

問4 下線部 a に関連して、平治の乱についての正しい説明はどれか。

- ア 左大臣藤原頼長と関白藤原忠通が対立した。
イ 平忠常と源頼信が対立した。
ウ 乱の結果、崇徳上皇は讃岐に流された。
エ 乱の結果、源義経は伊豆に流された。
オ 乱の結果、藤原信頼は滅ぼされた。

問5 下線部 b について述べた文として、誤っているものはどれか。

- ア 高倉天皇に娘を嫁がせ、安徳天皇の外戚となった。
イ 武士として初めて、太政大臣となった。
ウ 俊寛と共謀して、後白河法皇の院政を停止した。
エ 大輪田泊を修築し、日宋貿易を行った。
オ 厳島神社に写経を奉納した。

問6 下線部 c について述べた文として、正しいものはどれか。

- ア 藤原種継が暗殺されたことから、長岡京に遷都した。
イ 徳政相論において、菅野真道の意見を採用した。
ウ 『延喜式』を編纂させた。
エ 父は光仁天皇、母は渡来系氏族出身の高野新笠である。
オ 空海に教王護国寺を与えた。

問7 空欄 **D** にあてはまる人物はどれか。

- ア 高望 イ 塩焼 ウ 以仁 エ 鈴鹿 オ 長屋

問8 下線部 d について述べた文として、正しいものはどれか。

- ア 受領は、国司にかわって新たに設置された令外官である。
- イ 受領は、官物にかわって臨時雑役を課すようになった。
- ウ 尾張国の受領であった小野好古の暴政を非難する史料が残されている。
- エ 受領が地方支配を担うようになると、各地の郡家は衰退していった。
- オ 摂関家の当主は権益のために受領を兼任した。

Ⅱ 次の文章を読んで、下記の問1～8に答えよ。問1・2については、それぞれの解答を記述解答用紙に記入せよ。問3～8については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の記号をマークせよ。

早稲田大学の北を流れる神田川のほとりに、面影橋という少し変わった名前の橋があり、そのたもとに、今もひっそりと「山吹の里」の碑が立っている。江戸城を築いたとされる太田道灌ゆかりの地として古くから知られた場所である。

太田道灌は、関東管領を務めた山内上杉家と勢力を争った A 上杉家に仕えた武将で、関東における戦国時代の幕開けを告げた B のさなかに家督を継ぎ、両上杉家が反抗する古河公方の足利成氏との戦乱の中で、武蔵国豊島郡の武士・江戸氏の居館を大幅に改造して江戸城を構え、ここに入った。室町時代に入ってから関東では、幕府に反抗的な鎌倉公方と、幕府の支援を受けた関東管領の抗争が続いていたが、道灌は主家を支えてよく戦うとともに、武蔵国内で段銭を賦課するなど、一定の領域支配も実現していた。この時期、 A 上杉家の勢力が大いに伸張したのも、道灌の活躍によるところが大きい。道灌が江戸城に入ると、 A 上杉家の家臣団も多く江戸に住むようになり、江戸は C と並んで南関東有数の港湾都市として発展し、城門の前には市場ができて諸国から人や物資が集まってきていたという。しかしその後、小田原を拠点とする戦国大名の北条氏が南関東一帯に勢力を伸ばすと、江戸はその領国下に包摂されていった。

道灌は、鎌倉五山の一つである建長寺や足利学校にも学んだとされ、自ら和歌などもたしなむ一面ももっていた。応仁の乱で荒廃した京都から、相国寺の詩僧・万里集九を江戸城に招いたり、円覚寺・建長寺の学僧を招いて、隅田川の船上で詩歌会を催したりしたという。

問1 空欄 A に入る語を漢字で記しなさい。

問2 空欄 C には、近世には東海道最初の宿場町として栄えた地の地名が入る。この地名を漢字で記しなさい。

問3 空欄 B に入る名辞はどれか。

- ア 結城合戦 イ 享徳の乱 ウ 永享の乱 エ 応永の乱 オ 嘉吉の変

問4 下線部 a についての説明として誤っているものはどれか。

- ア 初代の鎌倉公方は初代将軍の子である。
- イ 管轄する国は最終的に合計12カ国に及んだ。
- ウ 管内の守護は京都ではなく鎌倉に出仕した。
- エ 第5代鎌倉公方は幕府軍によって伊豆国堀越に追われた。
- オ 鎌倉公方の足利持氏は将軍義教によって滅ぼされた。

問5 下線部bに関連して、室町幕府の経済基盤に関する説明として正しいものはどれか。

- ア 内裏の造営など臨時的に行われる事業に際しては、関銭が徴収された。
- イ 諸国に散在した御料所に対しては、守護を通じて年貢・公事が賦課された。
- ウ 全国的な商取引を展開していた土倉らに対する土倉役の賦課は、納銭方と呼ばれた有力土倉らに委託された。
- エ 將軍直臣の奉公衆は、守護の動向を牽制するため、守護領国内で段銭を賦課し幕府に納めた。
- オ 京都・鎌倉の五山寺院の住持となった禅僧に対し、任命の礼銭を納入させた。

問6 下線部cについての説明として誤っているものはどれか。

- ア 北条早雲は、幕府政所執事を務めた伊勢氏の出身とされている。
- イ 北条早雲は、姉が今川義忠に嫁いでいたことから、今川氏の内紛に乗じて駿河国を乗っ取った。
- ウ 早雲寺殿廿一箇条は、北条早雲によって制定されたとされるが、実際には制定者はよく分かっていない。
- エ 太田道灌の死後、北条氏綱によって江戸城は落城させられた。
- オ 北条氏康は、古河公方や岡上杉氏を破って関東一円を領国化した。

問7 下線部dについての説明として誤っているものはどれか。

- ア 15世紀前半に関東管領の上杉憲実によって再興された。
- イ 校長には円覚寺の快元が迎えられた。
- ウ 宣教師ザビエルによって、「坂東の大学」としてヨーロッパに紹介された。
- エ 戦国大名の武田氏や北条氏らの保護を受けて発展した。
- オ 多くの漢籍を所蔵し、禅僧や武士に対して儒学や経書が講じられた。

問8 下線部eの著作はどれか。

- | | | |
|---------|--------|-----------|
| ア 梅花無尽蔵 | イ 童子教 | ウ 水無瀬三吟百韻 |
| エ 公事根源 | オ 庭訓往来 | |

Ⅲ 次の文章と史料を読み、下記の問1～9に答えよ。問1～3については、それぞれの解答を記述解答用紙に記入せよ。問4～9については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の記号をマークせよ。

江戸時代では、身分の移動がまったくなかったのではないが、武士でも百姓でも、多くの場合、出身の家柄がその人の将来に大きな影響を与えた。性差別や被差別民も存在し、そうした差別を覆すのは容易ではなかった。そうした江戸時代の秩序は、儒教や仏教などの教えや、勤勉・分相応に生活することが美徳とされる道徳観念によって支えられた。

これらにより、江戸時代の人々は厳しい身分制度のもと、生まれながらにして不平等であったことを受け入れていたように思われがちである。しかし、18世紀に入り、災害や飢饉などを契機に社会問題が起きるようになると、既存の秩序に対する違和感から、格差の是正や平等を求める思想の萌芽が見られるようになる。富士講のような宗教活動の活発化はその一つの表れである。また、東北地方の厳しい飢饉を経験し、既存秩序とそれを支える教えを根底から否定するAのような思想家が登場したことは、注目すべきことである。もちろん、そのような思想がこの時代の主流になることはなかったが、平等を求める感覚は民衆社会の底流に存在し、19世紀に入ると、下記の史料のような考えが百姓身分の者から表明されるに至る。

史料1は、1821年に上野国川越藩前橋分領で起こった百姓一揆未遂事件の指導者として、永牢処分となった林八右衛門が、獄中で自らの半生を振り返りながら家族に宛てて書いた教訓書である。八右衛門は、川越藩江戸藩邸に減免を要求して出訴しようとした百姓らを説得して途中で思い止まらせたが、藩により頭取と見なされ、かえって永牢を申し渡された。八右衛門は、藩の面目のために犠牲になったということになる。

このように、江戸時代の秩序への違和感は、近世後期から幕末期において徐々に、民衆社会から発せられるようになっていった。

上御一人ヨリ下万人ニ至ルマデ、人ハ人ニシテ、人ト云字ニハ別ツハナカルベシ。最トモ貴賤上下ノ差別有リトイエドモ、是政道ノ道具ニシテ、天下ヲ平ラカニ成サシメンガ為ナルベシ。士農工商夫々ノ家業有レバ、其業ヲ大切ニ守ルベシ。

伊邪那^{いざな}比^ひ、伊邪那美^{いざなみ}の命^{みこと}も人間^{てんしやうだいじん}、天照大神^{あまてらすかみ}も人間なら、そのつづきの天子様も人間じやろうが。 C の神も同じ事じや。神とは云ふけれども、皆、天地の神から人体を受けて居られるのじや。天地の調^{とと}へた五穀^{ごこく}を頂^{いた}かれねば、命^{いのち}がもつまいがな。して見れば、矢張り皆、天が父、地が母じやろうが。

— 5 —

問8 史料1で八右衛門が主張していることはどれか。

- ア 人々の貴賤上下は、士農工商の生業と結びついて自然に生まれたものである。
イ 身分の上の人から下の人まで、みな人という字には変わらないので、現実社会に差別はない。
ウ 身分の上の人から下の人まで、みな人という字には変わらないが、差別のもととなる士農工商の生業を務めていくのは無駄だ。
エ 人々には貴賤の上下はあるが、これはみな政治上、作為されたものである。
オ 人々に貴賤の上下があるのは、もともとの出自がそうであるからである。

問9 空欄 **C** は、**B** 教とは別の民衆宗教を開教した教祖の名前が入る。この空欄 **C** に入る人名はどれか。

- ア 宗忠 イ なお ウ 惣五郎 エ 篤胤 オ 梅岩

Ⅳ 次の文章を読み、問1～6に答えよ。問1は解答を記述解答用紙に記入せよ。問2～6については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の記号をマークせよ。

明治時代につくられた治安体制の中心は、**1** 大臣による出版の取締りと、集会・結社の取締りの2つである。

大日本帝国憲法の第29条において、「日本臣民ハ **2** ノ範囲内ニ於テ言論著作印行集会及結社ノ自由ヲ有ス」とされたが、この段階で「言論著作印行集会及結社」に関する **2** は、出版条例、新聞紙条例^a、集会条例^bおよび保安条例^cであった。また、第8条に規定された **3** によって、既存の法規による以外の統制を加えることができた。

その後、出版条例は出版法に、新聞紙条例は新聞紙法に、それぞれ代わり、両法は第二次世界大戦後の初期まで存続した。その間、出版法および新聞紙法にもとづいて、「安寧秩序」を乱し、「風俗」を害すると認定される文章が掲載された出版物は、発禁（発売頒布禁止）や削除などの処分に付されたのである。

一方、従来の集会・結社の取締り法規は、1890年の集会及政社法に受けつがれ、さらにその集大成として、1900年に治安警察法^eが制定された。同法によって、警察官は談論中止、集会解散を命じることができ、国民はそれに対して異議申し立てをする術がなかった。また、結社については、**1** 大臣が、これを禁止することができた。

このような、集会・結社の取締り方式は、大正デモクラシー期には改正論議の対象となり、1920年代に一部が改正された。その一方、大衆運動が高まるなかで、従来のような警察的取締りだけで対処することは難しく、また、結社の届出をしない秘密結社が全国各地に簇生した。さらに、ロシア革命の影響をうけて第一次世界大戦後に高まった無政府主義・共産主義運動取締りのための法の整備がめざされ、1925年に治安維持法が制定された。

治安維持法はその後、1928年に **3** によって改定、強化され、1941年には再改定されて、反体制的とみなされるあらゆる運動が取締りの対象となった。併せて、1938年の国家総動員法と同法にもとづく命令、1941年の言論出版集会結社等臨時取締法などによって、戦時期には言論・出版・集会・結社に対するきびしい取締り体制が確立したのである。

問1 空欄 **1** ・ **2** ・ **3** に該当する語を漢字で記入せよ。

問2 下線部 a・b・c・e に関する説明として、誤っているものはどれか。

- ア a は、自由民権の論調が高まり政府の専制を攻撃したのに対して、これを取り締まるため、1875年に制定された。
- イ b は、国会開設運動の高揚に対して、これを取り締まるために演説会・結社を届出制にし、警察官に解散権を与えた。
- ウ c は、三大事件建白運動の高揚に対して、秘密結社・集会の禁止、内乱陰謀や治安妨害のおそれのある者の皇居外3里への追放などを規定した。
- エ e では、女子および未成年者が政談集會に参加することが禁止されたが、その後の改正で女子の参加は認められた。
- オ e は、治安維持法の制定にともなって廃止された。

問3 下線部 d の出版法または新聞紙法によって、1930年代に発禁にされたものを2つ選べ。

- ア 滝川幸辰『刑法読本』
- イ 火野葦平『麦と兵隊』
- ウ 和辻哲郎『風土』
- エ 河上肇『貧乏物語』
- オ 河合榮治郎『ファシズム批判』
- カ 戸坂潤『日本イデオロギー論』

問4 下線部 e によって、結成の2日後に結社禁止にされた組織は、次のうちどれか。

- ア 社会主義研究会 イ 日本社会主義同盟 ウ 日本共産党
- エ 社会民主党 オ 日本社会党

問5 問4のA～オを結成された時代順に並べると、正しいものはどれか。

- ア A→イ→ウ→オ→エ イ A→エ→オ→イ→ウ ウ オ→ウ→エ→A→イ
- エ E→A→オ→ウ→イ オ E→オ→イ→A→ウ

問6 下線部 f の時期のできごとの説明として、誤っているものをすべて選べ。

- ア 1928年の治安維持法の改定により、国体変革ならびに私有財産制度の否認を目的として結社を組織した者などに対し、最高刑として死刑が科せられることになった。
- イ 1928年の三・一五事件の後、全国一律に特別高等警察が設置された。
- ウ 1930年代には、多くの宗教団体関係者が治安維持法違反や不敬罪などの容疑で検挙され、拷問をうけた。
- エ 1937年12月と1938年2月の二次におよぶ人民戦線事件において、多数の無産政党・労働組合関係者や大学教授らが、治安維持法違反の容疑で検挙された。
- オ 1941年の治安維持法の改定によって、治安維持法違反の罪を犯した者に対し、再犯防止のために保護観察をおこない得ることが規定された。
- カ 太平洋戦争下に起こった横浜事件では、治安維持法違反の容疑で学者や多数の編集者などが検挙され、激しい拷問が加えられ、4人が獄死した。

V 次のA～Cの資料を読んで、問1～5に答えよ。問1・2は、解答を記述解答用紙に記入せよ。
問3～5については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の記号をマークせよ。

A 昭和二十一年四月の総選挙で、私は落選したが、自由党は第一党になった。どういう事情であったか、真相は知らぬが、幣原首相が、後継首相の推薦に非常に手間取り、政界は混雑した。しかし、結局、自由党の 1 氏が天命を拝受するということにしまった瞬間、同氏は五月四日公職追放を受けた。

B 対支出兵はいよいよ重大の結果を引き起した。済南においては、宣戦の布告こそなければ、宛然日支開戦の状態を現わし、我が政府は更に多数の軍隊を支那に派遣しつつある。(中略)今日の首相田中男は、かつて陸相として 2 を敢行し、数億円の国帑を空費した。のみならず国内においては金塊問題、機密費問題の如き不愉快なる事件(中略)を引き起した。支那出兵は、まさか 2 の如く長引くこともあるまいが、しかし結果はやはり 2 の二の舞いに終りはせぬかと深く恐るる。

C 青島陥落が吾輩の予想より遙かに早かりしは、同時に戦争の不幸のまた意外に少なりし意味において、国民と共に深く喜ぶ処なり。しかれども、かくて我が軍の手に帰せる青島は、結局いかに処分するを以て、最も得策となすべきか。これ実に熟慮を要する問題なり。

この問題に対する吾輩の立場は明白なり。アジア大陸に領土を拡張すべからず。満州も宜しく早きに^{おと}進んでこれを放棄すべし、とはこれ吾輩の宿論なり。

問1 A・B・Cは同一人物が書いた文章であり、Aは1951年に刊行された回想記、B・Cはその当時の或る新聞の社説である。筆者の氏名を漢字で記せ。

問2 空欄 1 に該当する人物の氏名を漢字で記せ。

問3 下線部 a に関することがらの説明として、誤っているものはどれか。

- ア 公職追放は、GHQの指令にもとづいて実施された。
- イ 公職追放によって公職から排除された人は、約20万人におよんだ。
- ウ 公職追放とは別に、多くの教員を追放の対象とする教職追放がおこなわれた。
- エ 岸信介はA級戦犯容疑者にはならなかったが、公職追放となった。
- オ 大日本言論報国会の会長を務めた徳富蘇峰は、公職追放となった。

問4 空欄 2 に該当する語を選べ。

- | | | |
|----------|--------|--------|
| ア 台湾出兵 | イ 朝鮮出兵 | ウ 日露戦争 |
| エ シベリア出兵 | オ 山東出兵 | |

問5 B・Cが発表された年は、それぞれ何年か。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| ア B1915年・C1928年 | イ B1927年・C1937年 | ウ B1928年・C1914年 |
| エ B1918年・C1931年 | オ B1927年・C1915年 | |

[以下余白]

